

茨木市立水尾小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ⑤読むこと | 概ね良好な結果であった |

（問題形式）

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

- ・もっとも正答率の高かった設問
「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う」設問
- ・もっとも正答率の低かった設問
「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う」設問
- ・もっとも無解答率の高かった設問
「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」設問と「日常よく使われる敬語を理解しているかを問う」設問

分析

- ・全国平均と比べ、ほとんどの領域でおおむね良好な結果であったが、昨年度に引き続き、「書くこと」は課題が残る結果になった。
- ・「言葉の特徴や使い方」、「我が国の言語文化」、「話すこと・聞くこと」に関しては、全国平均を上回っているが、「書くこと」の正答率は全国平均を下回った。また、「読むこと」に関しては概ね良好な結果ではあるが、全国平均はやや下回る結果となった。
- ・問題形式別では、「選択式」や「記述式」では平均を上回り、「短答式」では概ね良好な結果ではあるが、全国平均をやや下回っている。
- ・無解答率は全国平均よりも下回っている。
- ・目的や意図に応じて自分の考えを書くことに課題あり、学校全体として授業において言語活動の充実を進めていく必要がある。

〇●算数●〇

(領域ごと)

①数と計算	概ね良好な結果であった
②図形	良好な結果であった
③変化と関係	概ね良好な結果であった
④データの活用	良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問
「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかを問う」設問
・もっとも正答率の低かった設問
「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」設問
・もっとも無解答率が高かった設問
「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問

分析

- ・全ての領域・問題形式で平均正答率が全国平均を上回った。学校全体で問題解決型学習に取り組んできた成果と考えられる。
- ・領域別では、「数と計算」、「変化と関係」の設問に比べ、「図形」、「データの活用」の設問が全国平均を大きく上回った。
- ・無解答率に関しては、「(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる」設問で全国平均を上回っていたが、それ以外の全ての問題において全国平均を下回っている。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・国語は H28 年度から正答率が全国平均を下回っていたが R3 年度から全国平均を上回ってきている。今年度は、昨年度より正答率はやや下がったものの、全国平均を上回っている。
- ・算数に関しては正答率がやや下がっているが、令和元年度より全国平均を上回る結果が続いている。
- ・無解答率は、昨年に引き続き、全国平均を下回った。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・高位層の割合は、今年度も全国平均を上回っている。また、低位層の割合に関しても昨年度同様全国を下回り、良好な結果であった。
- ・教科別で考えると、国語の高位層の割合が全国平均を下回り、低位層の割合は全国平均を大きく下回っている。算数では低位層が全国平均を下回り、高位層が全国平均を上回っている。
- ・エンパワー層の割合は平成 29 年度より減り続けていたが今年度は大きく増えた。

〇●取り組み●〇

南中ブロックスタンダードを基本とした授業のユニバーサルデザイン化の実践

- ・教室の環境整備を行い、授業の準備を整え、落ち着いて学習に取り組める環境をつくる。
- ・チャイム着席や授業のはじめとおわりのあいさつなどの授業規律を大切にす。
- ・全ての子どもが分かる、学び合いのある授業づくりのために「課題」「めあて」「学習の見通し」「自力解決」「学びの振り返り」など、学習時間の構造化を推進する。
- ・学習の協働化・共有化を図るために、ペアやグループ活動など、友だちと話し合う時間をもち、互いの意見を交流するなかで考えが深まるようにしていく。
- ・視覚教材や具体物を活用し、体験的に学べる授業づくりを行う。

1～6年までの系統立てた学習活動の推進

- ・教職員間での取り組みの共通理解を図り、校内研修での授業力の向上をめざしていく。

児童が安心して学習できる居場所づくり

- ・学力向上に向けて、普段の人間関係づくりや集団づくりを大切にしてい (みずおの「み」の「みんな仲良く」)。
- ・一人ひとりを大切にする人権教育を推進していく。

基礎学力の充実

- ・習熟度別学習や少人数分割指導を行うと共に、スクールサポーター等との連携や、授業中の人的支援の有効な活用を進め、個別に支援できる体制づくりを継続して行っていく。
- ・基礎基本の定着を意識した反復練習を重ねるなど、習熟することに時間がかかる児童への細やかな対応や取り組みを行う。
- ・「宿題がんびり週間」などを活用し、家庭学習の確認を続け定着を図るとともに家庭との連携も強めていく。
- ・毎学期の「学び方をふりかえろう (自己評価)」で、自分の学習への向き合い方を見つめなおしていくことで、学ぶ意欲を高めさせ、個人懇談で成果や課題を共有し、家庭と連携し学習に向きあえる体制をつくっていく。

問題解決型の学習

- ・主体的に課題に取り組み、思考力・判断力・表現力が育めるような授業づくりを行っていく。
- ・考えをつなぎ、深めるために、ペアやグループでの交流、全体での練り上げを大切にしていく。

ノート指導

- ・学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導を行う。
- ・授業の最後の振り返りを自分のことばでまとめることで、学習の自己評価を行うとともに、自分の考えを言語化し、「書くこと」の力の育成にもつなげていけるようにする。

読書活動の充実

- ・「読書が好き」「楽しい」と実感することで「読むこと」への意欲を高めていきたい。そのために「朝の読書タイム」や「読み聞かせ」などの取り組みを継続していく。